

〔 編 集 後 記 〕

平成23年3月11日午後未曾有の東日本大震災が発生しました。お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げると共に、被災された数十万人の方々の一日も早い復興を祈念致します。

この度、千葉医学雑誌 第87巻2号をお届けします。本号には総説1編、原著2編、症例1編、海外だより2編、千葉医学例会・呼吸器内科学会が掲載されています。総説は齋藤先生による「鎖骨骨折の保存的治療」で、無床診療所における鎖骨骨折治療の現状とその成績を詳細に解説されています。原著は松代先生らにより、「近赤外分光法」の診断に対する信頼性を脳波計測法と比較検討している研究と、ザヘッド (Zahed) 先生らによる、癌細胞特異的薬物輸送法の開発の一環として、ストレスタンパク質に結合する低分子ペプチドを検索する研究です。どちらも読みごたえのある内容で、是非とも精読されることをお勧めします。症例報告では青柳先生らにより、進行胃がん切除手術における術前化学療法の有効性について述べられています。海外だよりは丸山先生による米国バージニア州リッチモンドの Virginia Commonwealth University における研究生活と、中西先生によるオハイオ州コロンバスの州立大学癌センターにおける研究生活が述べられており、お二人共に現地での研究および生活を楽しんでおられる様子が伝わってきます。例会では24例の研究報告がなされており、呼吸器内科の活発な研究の様子が示されています。

千葉医学雑誌も第87巻を迎え、野田編集委員長以下編集委員の新しい本紙に込めた決意は前号で述べられておりますが、千葉医学会の皆様方が一丸となって、千葉医学雑誌の更なる飛躍、発展にご助力を頂きたいと願っております。

今年は千葉医学雑誌にとっては新たな門出となりますが、世の中は混迷を深め、むしろ停滞あるいは後退の様相を呈していると思われます。国内の政治不信は更に加速し、中近東を発信源とした民主化の波とそれに伴う混乱も世界を覆いつつあります。21世紀に入って世界には種々の不安定要素が出現し、政治、経済に先の読めない状態、本質を掴めない不安な状態が続いております。

物質の本質を問う物理学の分野でも、最大のなぞの一つで、宇宙の主な構成要素である暗黒物質やダークエネルギーの観測競争が過熱し、世界中の研究者が国の威信をかけて取り組んでいます。宇宙は高々4%の普通の物質と23%の暗黒物質、73%のダークエネルギーから成り立っていることが理論的に推測されていますが、眼に見える普通の物質よりも、はるかに多量の眼に見えない物質やエネルギーが存在していると考えられています。世界が眼に見えない物や手に触れられない物にあふれ、存在が実証されていない物質に囲まれているかもしれないと考えると、極めて不安な気持ちになります。

人の営みは文化を創り、文明を造り、歴史を紡ぎ上げて来ました。世界を構成していると考えられる物質の場合と同様に、文化や歴史の中に、そして政治、経済の中にも眼に見える、手に触れて確かめられるものは、ほんの僅かに過ぎないと思われます。

昨今の不安で先の読めない時こそ、それら眼に見えないもの、触れられないもの、実証されていないもの、その本質に想いを馳せ、しっかりと軸の振れない生き方をしたいと自戒しております。

(編集委員 龍岡穂積)